No. 年 月 日

八幡製鐵所の勞働團
寒雨を衝て示威行列
會歌を高唱して全市を練る
始終靜肅に此種運動の模範を示す
官業勞働同盟二期大會

官業勞働同盟八幡同志會第三期大會及示威運動は豫定の如く十五日凍える許りの寒雨の裡足を沒する泥濘を冒して決行した之れより先會員は午前八時頃より漸次八幡驛前に集合して九時頃には既に七八百名に達し出發の頃は一千三百名に上つたその内に青色の小三角旗は會員の手に手に配られ赤の小布片を會員章として各自の胸間に附け會長勝部長次郎、副會長中川喜一郎、東京勞働聯盟理事足達和同幹事坂川定良の諸氏及び常務員等は白布を左の肩より斜に腕下に結び團長は赤白二筋小隊長は赤一筋の布を同じく肩より掛け工作部修繕工場山繩物を先頭とし製版、五瀨坑、二瀨坑、戸畑作業所等之れに次ぎ斯くて全體を十隊に分ち各隊に團長及び五十人毎に三人の小隊長を配し「日本勞働聯盟」の長白旗及び赤地に白字で勞働組合同志會と染め拔いた飄飄の會旗を先頭に「勞働者の設置」「失業者救濟」「八時間勞働制」「社會改造」「勞働保險の急施」「退職手當改善」「最低賃金制」「[illegible]」「勞働法案急施」[illegible]

投石するが如き事あるべからず假令他より吾等に向つて投石する者ありとも不肯勝部が命令せざる限りは斷じて應戰する勿れ」と嚴重に戒め十時廿分一同は寒雨降りしきる中を足達理事旗手勝部慶二氏が掲げた同志會旗と勞働聯盟旗とを先頭に立て會歌を高唱して西本町一丁目から勞働都市氣分の漲つて居る西本町筋を五丁目から電車道に出で前田京町から一、二、三號官舍の間を縫ふて西本町八丁目から祇園町を練り始終肅然たる隊伍で左側を通行したが此の邊に來た時は會員も益々增加し列の長さ五町に亘り示威行列としては模範的行動を示した其れより平野官舍の大通りを通過し[illegible]電車道に出で通町を勝賀會前から大藏槻田官舍に出で兩國館前で一應解散し正午同館で歡迎會を開いたが今井嘉幸博士は午前十一時半到着し直に自動車で驅け中央郵便局前で行進列に加はるや一同萬歲を三唱した尚同日警戒の爲め八幡署[illegible]課長、[illegible]下門司水陸[illegible]の警官を加へ[illegible]私服で隊中に混じ憲兵隊長以下私服憲兵數十名も[illegible]若松の各署より[illegible]百五十名大部分[illegible]亦之に加はり物々しく警戒したが[illegible]行列は靜肅に進行し無事終了した

八幡の勞働演說會
「失業者を救濟せよ」

十五日八幡製鐵所勞働團の示威大[illegible]行列は全市を練り歩きて午後一時會場たる大藏兩國館に到着し[illegible]應援の爲め來幡し今井博士並に足達勞働同盟理事及び八木大阪工場會長以下各幹事を取囲みて團隊を作り今井博士は[illegible]起つて

私は四五日以來卅八度の發熱で諸君と此意義ある行列を共にする事を得なかつたのを遺憾に思ふ然し私の心は常に諸君と共にあり私は大正八年日比谷公園に於て全國普選運動の一聲を擧げ其後大阪に於ける演說會に列席して居る八木大阪工場會長等と共に普選の急施を高唱し大正十一年一月十五日を期し九州の地に於て斯に秩序ある示威運動を斷行し茲に不肖の身をも顧みず本會に列席して挨拶をなすことを得たるは衷心光榮とする所である

と挨拶を述べ次で勝部同志會長の辭あり萬歲を二唱して一時三十分[illegible]衆なる群の後左の決議文を朗讀するや滿場一致を以て可決した

決議

一、軍縮に因り失業者に對し救濟法を講ずる事其救濟案は海軍案の意見を參酌し大會委員に於て共同立案する事

二、生産的産業を新興する事

三、道路其他の公益的土木工事の勵進

四、勞働保險の實施

五、國民教育の充實

斯て午後六時過ぎ會員[illegible]今井博士引續き午後六時半より[illegible]は[illegible]の如き喝采に迎へられて壇上に現はれ[illegible]普選問題勞働問題等に就き縷々陳述し多大の感動を與へ次で安達[illegible]八木信一の諸氏何れも[illegible]の氣勢を添えた

紙 夕刊共 十二頁

[illegible]

後妻 (27)
上司小劍
石井滴水畫

白菊 (三)

其の夜は惡に角順調に過ぎた。道はれるほどのこともなくて、廿の朝日を迎ふることが出來た。もう冬と言つてもよいほどの弱い日が障子の破れから射し込んで、嬰兒の赤い顏をちらくと照らしてゐるのも、新しく生れた小さい命の將來の健康を祝福するやうで正春は言ひ知れぬ嬉しさを感じて居た。假りにも嬉しいといふ心持になることの出來たのは、この一年振りのためしたか分らなかつた。君子も一夜熟睡した爲めに、大分元氣を回復して來るやうで、食には少量のお粥とさしみとを食つた。嬰兒も今朝はあまり泣かないで、ガーゼの小さく丸めたのに砂糖水を染ませたのを、小さい[illegible]

つて、强請るんぢやなし、いゝぢやありませんか。』

『だから、知らせる必要がないといふんだよ。』と、正春は素ッ氣なく言つた。

『あんな邪險な阿母さんでもこの嬰兒ちやんには唯一人のお祖母さんですからね。』と、君子は一生懸命になつて爭ひかけた。

『お祖母さんなら、お祖母さんらしくしてくれたらいゝぢやないか十年の間此方から手紙を出したツて、返事ひよこすんぢやなし[illegible]たツたか、僕は厭だツたけど[illegible]があんまり言ふので、[illegible]るいのな辛抱して、お阪の[illegible]つてみると、まるで乞食か[illegible]が來たやうに、裏口へ廻ると、仲働き[illegible]れて、裏口へ廻れ[illegible]來て、何んの御用ですかと[illegible]

創作の食傷 (五)
文壇
—一月の文壇—
竹森素堂

新潮新年號の中で、一番面白いと感じたのは『藪の中』(芥川龍之介氏)であつた。

これは現代の物事を書いたものではないが、例の諧謔的歷史物語とも又種類を一緒にすることが出來ない、更に角一風變つた、ナカく面白い。[illegible]

勞働者一千名の行列
示威運動の爲め練り廻る
昨日八幡市で開かれた日本勞働總同盟大會[illegible]

[illegible]養を十分にさせるくらゐの手當てをしてくれるかも知れないなぞと正春が今更意氣地のないことを考へるのも、君子と嬰兒との戀慕さからであつた。

[illegible]同の厄を免れたが之れが[illegible]した小競合があつたのみで豫想外に無事平穩であつた

6.

同志會大會

[illegible]

示威運動

一月十五日午前九時八幡停車場前集合

演說會

仝午後二時大藏兩國館ニテ

午後〇時マデ

辯士

今井嘉幸博士

八木向上會長

安達日本勞働聯盟理事

廣永向上會副會長

丹羽向上會理事

其[illegible]